

埋文ぐるまがた



1996年12月24日

第6号



西村山郡西川町睦合館跡

むつあいたてあと
1996年10月31日遺跡の北側上空から撮影

東西80m南北70m

標高234m

財團法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301㈹ FAX 0236-72-5586

定点撮影

むつあいたてあと
西村山郡西川町睦合館跡の発掘調査より

1日目

7月16日

START

8日目

7月26日

14日目

8月5日

25日目

8月27日

東

南

北



さあやるぞー！夏草に埋もれた館跡を前に胸が高鳴ります。まずはテントの組立から。



じゅうきかい ばっさいばく ひょうどじょきょ
重機械が大活躍。散らばる伐採木集めは長いアームが頼りです。その隣では表土除去。



えんてんか とうじわ
炎天下、堅い土と木の根に手こずる日々... 全身汗だくとなって唐獄をふるいます。



くるわ なが ばつぐん
曲輪での作業は眺めも抜群！一段ずつていねいに掘り出します。

28日目

8月30日



セミの声もめっきり滅り、夏はもうわずか。ようやく柱や溝の跡が見えてきました。

34日目

9月9日



秋雨の一日。遺跡をシートでおおいます。手前では伐採木の山が見る間に小さくなります。

41日目

9月19日



障害物がなくなって見晴らしがスッキリ。二回目の表土除去、この下には何があるのかな？

空堀と土壘



主郭がほぼあらわれました。しかしホッとする間もなく空堀の調査が待ってます...

で刀が
たぞー



ワクワクしながら遺構掘り。「刀がでたぞー」の声にどれどれとみんな駆け寄ります。

57日目

10月16日

67日目

10月31日



くうちゅうきつい
いこうそうじ
秋晴れに紅葉が映えます。明日の空中撮影に向け、遺構掃除にはげみます。

70日目

11月6日



いこう
あくせんくどう
遺構は水たまりとなり、さらに吹きすさぶ風のなか最後の表土除去に悪戦苦闘！

72日目

11月8日



ついに、中世の睦合館跡がその姿をあらわしました... しばし感激！
かんばり

75日目

11月13日



たでのあと
とうとう初雪！見つかったばかりの建物跡の記録を取り手もかじかみます。

80日目

11月20日

CLOSE



じょうじつかん
最終日、道具も片づきみんなの表情には充実感があふれます。80日間お疲れさま、

ていてんさつえい 定点撮影

睦合館跡の発掘調査は今年の7月16日から11月20日までの延べ80日間おこないました。この日々の移り変わりを定点撮影で記録しました。これは毎日同じ時間、同じ場所で写真をとり続ける方法です。

記録した写真は全部で調査日数と同じ80景になりました。今回はそのうちの14景で、調査の80日間を縮めて紹介してみました。

はじめ初夏の臭い立ちこめる青葉の中で調査が始まりました。そしてうだる暑さの中の調査を経て、ついには初雪の中での作業となりました。少しは調査の雰囲気が伝わったでしょうか？



睦合館跡を南東側の寒河江川越しに望みます



睦合館跡を南側から見た想像図（伊藤 元）

土の城

睦合館跡は、戦国時代に寒河江川左岸の丘につくられた城跡です。標高は230mを測ります。当時のくらしは平地で営まれ、いざ戦の時には丘の上の城にこもり、武器を携え敵の攻撃に備えていました。

そのため、敵から城を守るためにさまざまな工夫がこらされています。北側には三重の土塁と深い堀をつ



くわ
曲輪

くりました。南と西側には合計15段もの小さな平場(曲輪)をもうけました。敵が攻めてきたときにはここで防ぎ、さらには攻撃に転じることもありました。

このように睦合館跡は自然の地形をたくみに利用した、大がかりな土木工事で造られた土の城といえます。
(伊藤 元、須賀井明子)



から
空堀 と 土 塁

遺跡に見る地震の痕

さがえ さんじょう 寒河江市 三条遺跡

1994年～1996年発掘調査

自然災害の怖さを目の当たりにしている近年、発掘調査でもその痕跡が発見され注目を集めています。過去の災害痕から災害の周期や地形の理解を進め、現在の防災に役立てる試みもおこなわれています。

山形県では軟弱地盤の庄内地方でしか確認されていなかった地震の噴砂が、内陸地方の三条遺跡で初めて発見されました。噴砂とは、水を含んだゆるめの砂が地震の振動を受けて液状になり、地割れから噴き出し

たものです。地盤の変化をもたらすため、建物などに被害を与えることで知られています。

三条遺跡では、縄紋・弥生・奈良・平安・鎌倉・江戸時代のおのの生活の跡が見つかっています。噴砂は縄紋時代より下の層から帶状に噴き出しています。さらにこれを平安時代の井戸が掘り込んでいます。このことから噴砂を引き起こすような地震が、縄紋時代から平安時代の間に起きていることがわかりました。また地震当時の地下水の水位や地盤のもろさを知ることもできました。

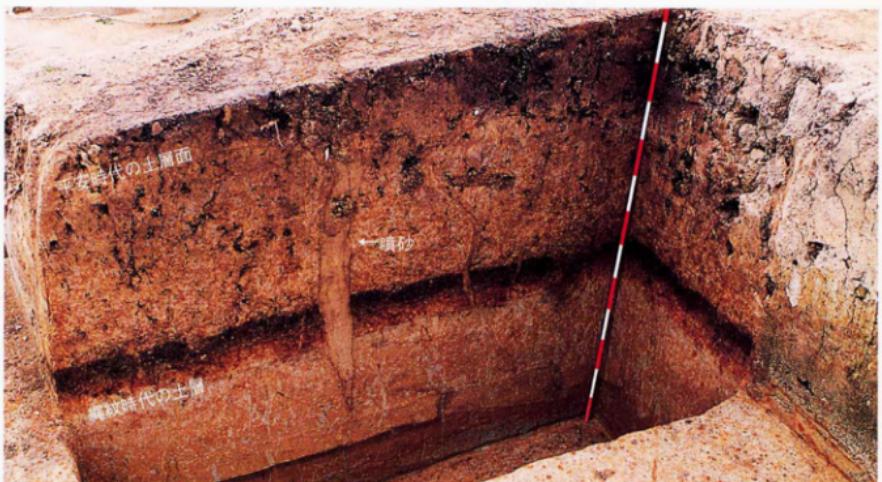
(水戸弘美)



地震による土層の乱れが見られます



細長く噴砂が吹き出しています



噴砂の土層を断面から見ています

あくみぐんゆざまち
飽海郡遊佐町 下長橋遺跡

1988年発掘調査

掘立柱建物跡の掘り方に地震による変形がみられ、柱根も傾いています。大規模な帶状砂が北西—南東方向で最大幅約1m、長さ15m以上確認されています。地震は平安時代10世紀後半から11世紀前半の間に起こったと考えられています。

祭祀の遺構には甕・壺・皿・礎がまとめて埋められた穴が6基、壺または皿を埋めた穴が8基ありました。各穴の掘り方には変形が見られないことから、震災のあとにおこなった地鎮の遺構と考えられています。

じちんいこう
地鎮遺構

掘立柱建物跡



地震で倒れた掘立柱跡

くもつ
かめ
れき
地鎮の供物、甕と皿と礎

おいし
酒田市 生石2遺跡

1985年、1986年発掘調査

家屋の倒壊痕と埋もれた井戸跡が見つかっています。また噴砂があった痕跡もありました。掘立柱建物跡の柱根が西側に傾いて残っています。また焼失家屋の柱根を穴に横倒しに埋めて、さらに同じ場所に同じ規模の建物を再建していました。

SE250井戸跡の北側に、SE490井戸跡の側板が南西方向に横倒しになった状態で見つかりました。はじめSE490井戸跡は上層では見つけられませんでした。

遺跡の時期は8世紀中葉から10世紀代にかけてと考えられます。地震の時期はよくわかっていないません。



横倒しになった井戸側 SE490



地震で倒れた掘立柱跡



西側に柱が倒れている倉庫群跡

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

平成8年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会が下記のようにおこなわれました。

主催：全国埋蔵文化財法人連絡協議会

(財)山形県埋蔵文化財センター

期日：平成8年10月3日（木）・4日（金）

会場：山形市ホテルキャッスル（3日）

寒河江市高瀬山遺跡（4日）

参加者：155名

この研修会の主旨は、埋蔵文化財などの文化財保護事業の現状について研修し、会員相互の資質の向上と各法人の事業の推進を図ることにあります。

（以下敬称略）

1日目（10月3日）

■講演

「災害考古学」－山形県の発掘例から－

国立山形大学人文学部環境地理学

教授 阿子島 功

遺跡の存続期間中の住居・耕地の破壊、集落の廃絶が地(形)変(化)によったと推定される例がしばしば発掘されています。

災害考古学は古代の生活復原だけでなく、地点ごとの地形変化の履歴や速さの復原を通じて現在の地域防災に役に立つと期待されています。

地域防災は土地を知ることからはじまります。考古学は土地とくらしを復原する科学であります。

（発表要旨より）



■分科会

管理運営部会 講演「災害と収蔵設備」

野田市郷土博物館 学芸員 金山喜昭

阪神・淡路大震災後の文化財レスキュー組織についてと、被災状況をスライドで説明されました。また事前にお願いしたアンケートについては、震災前も後も対策をとっていないところが多く、地震対策について埋蔵文化財関係は立ち後れている回答結果でした。さらには地震対策の基本について具体例を示したお話をいただきました。

調査研究部会「遺跡に見られる災害痕」のテーマで、三県の事例発表がおこなわれました。

福島県 (財) 福島県文化センター

文化財副主査 吉田秀享

福島県の発掘例紹介の後、段の原B遺跡（純紋時代の地割れ）と大森A遺跡（降下火山灰・洪水で埋没した水田跡）についてスライドを用いて説明されました。

新潟県 (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

調査第1係長 藤巻正信

河川・海岸・土砂災害の三つが新潟県の特徴であることを紹介された後、上郷遺跡（河川灾害）と刈羽大平遺跡（海岸灾害）・小丸山遺跡（飛砂）についてスライドを用いて説明されました。

山形県 (財) 山形県埋蔵文化財センター

調査研究員 伊藤邦弘

下長橋遺跡（地鎮遺構）、生石2遺跡（建物跡・井戸跡の地震痕跡）についてスライドを用いて説明されました。

2日目（10月4日）

■視察

寒河江市の高瀬山遺跡（平安時代の集落跡）の視察をおこないました。調査概要の説明の後、三班に分かれ当所職員の説明をもとに遺構の在り方や、集落論まで熱心に語られたようです。



■編集後記

▲全埋文協の研修会も盛会の内に終了したこと感謝申上げます。それにしても"石屋さんたち"の精力的なことといったら「寒河江川で頁岩を拾って帰るから、ここでバスを降ります」とは!? 皆して口ポカーン…遺跡の定点撮影は思ってもこれまでなかなか実現できませんでした。黒(旦那)さんに感謝!感謝!(郷)